

会議録

会議の名称	第4回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開催日	令和7年11月19日(水)
開催時間	午後6時30分 から 午後8時10分 まで
開催場所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者(出席委員) の氏名・出席者数	明野 真久、神田 小百合、中口 智弘、細野 勇人、中村 則裕 小林 大輔、大山 美智子、矢部 れい美、藤井 亮輔、濱本 一 安原 輝彦、松崎 慶喜 出席者: 12名
欠席者(欠席委員) の氏名・欠席者数	辻 文明、水野 香奈、加藤 政典 欠席者: 3名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏名	教育長 横松 伸二 教育部長兼教育指導課長 長谷川 亘 教育総務課長 高澤 憲司 教育指導課指導主事 福岡 拓弥 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
その他会議出席者の 職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 ファシリティマネジメント推進課主査 空谷 大地 株式会社ファインコラボレート研究所 土肥 千絵
傍聴者数	14人
会議次第	別添のとおり
配布資料等	資料 新たな学習及び多様なニーズへの対応について

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	1 開会
教育長	2 あいさつ
事務局	3 議題
	<p>それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。</p>
濱本会長	議題に入る前に一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	<p>それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。</p> <p>また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコラボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。</p> <p>なお、傍聴の方の入室を許可しておりますので、ご了承ください。</p>
濱本会長	それでは議題に入る前に、11月17日に実施されました、つくば市立春日学園義務教育学校への視察研修について、出席できなかつた委員の方々もいらっしゃいますので、当日の様子などについて、事務局から簡単に報告をお願いします。
事務局	視察研修の様子などについて報告
濱本会長	事務局からの報告が終わりました。何かご質問等はございますか。また、せつかくの機会ですので、視察研修に参加されました委員の方々から感想を一言お

	<p>願いしたいと思います。</p> <p>B委員</p> <p>まず施設の素晴らしさに感動しました。大学のような雰囲気を持つ施設になっていて、教室が全部ガラス張りでした。開放感あふれる施設になっていて、教員の方々のモチベーションも上がるのではないかとすごく感じました。やはり日本初の義務教育学校ということで、自負がある先生方が集まっていて、子どもたちの教育のためにどんなことができるのか、ということを考えながら工夫した授業を実践されているようでした。</p> <p>また、視察中に春日学園の校長先生へ保護者と地域と学校の関係性についてお伺いしました。私は、この関係性について、白岡市では課題の1つになっていると感じています。校長先生からの回答は、学校に対しての保護者からのクレーム的なものは、ほとんどないという回答でした。昨今では、些細な事柄であっても保護者の方が学校へ直接来て、対応に時間を割かれるケースが多く見受けられると思いますが、そうした状況があまりないと伺い、驚きました。</p> <p>それとPTAの加入率についてもお伺いしましたが、高い加入率だそうです。そして、PTAは積極的な活動をされているようで、学校の中にもPTA室という広い部屋が設置されていて、そこでいろいろと活動しているとのことでした。PTAの皆さんが常に学校にいらして、子どもたちの見守りをしていて、会議は、1ヶ月に1回実施しているとのことでした。保護者の方々から学校に対して信頼があるのだなと感じ、素晴らしいと思いました。</p> <p>D委員</p> <p>やはり学校施設と学ぶ環境が大変素晴らしいと思いました。これが第一に感じたことです。</p> <p>私の視点からは、つくばスタイル科は非常に目をひきました。越谷市が、総合的な学習の時間を文部科学省の委託を受けて発表したことを思い出しました。このつくばスタイル科は、つくば市独自の教育課程であり、総合学習、特活、道徳と生活科、この4つを組み合わせて一つのつくばスタイル科というのを作り取り組んでいます。この内容を白岡市に取り入れれば素晴らしい教科ができると感じました。</p> <p>それからICT環境は素晴らしいと思います。実際の子どもたちの授業</p>
--	---

	<p>は少ししか見れなかったですが、説明を聞いている中で、やはり国際交流をネットを通してリアルタイムでできる、筑波大学や各種研究機関と連携をしていろいろなことができる、そのあたりが素晴らしいと、先進的だと思いました。</p> <p>最後に、この適正規模・適正配置審議会に関係することだと思いますが、つくば市教育委員会は適正配置計画・指針を5年ごとに見直しているとのことで、そういった部分を意識し、定期的に見直していくことが必要だと感じました。</p>
H委員	<p>生徒の学校紹介の発表の中で出ました、学校の良いところについて、紹介させていただきます。「先輩たちの活躍を間近で見られる」「憧れの姿にたくさん出会える」「中学に不安がなくなる」「図書室の増書数が多い」「異学年交流で思いやりが育つ」ということで、「優しい中学校3年生が育ちます」と言っていたことがとても印象に残りました。それから、修学旅行が4月に実施できるというのは驚きました。9年間のつながりがあって行けるのかなと受け取りました。</p> <p>それから、異学年交流と関連してコラボ授業の説明もありまして、こちらも5年生と7年生、9年生が古典の学習をすることもありますという紹介を聞いて、施設一体型の義務教育学校だからこそできることかなと感じました。</p>
K委員	<p>保護者の目線で、9年生だと中学3年生だと思いますが、生徒会や代表委員の子どもたちが学校紹介をしてくれた際、落ちついて大人びていて高校生と話しているのではないか感じ、自信を持って発言されていたのはすごく印象的でした。また授業の様子をみさせていただきましたが、中学生の子たちは1人1台端末を持っており、キーボードが付いていて操作を上手に行っているところも感心しました。あと、探究活動ということで、高校生が授業をやっているような内容を中学生でやっているのも驚きましたし、そういった活動も小学校、中学校からやっていくのも必要だなと感じました。</p>
M委員	<p>私は2つの目線で学校視察をしていました。1つは審議会委員としての目線、もう1つは学校を経営する経営者としての目線です。しかも私は公立学校ではなく私立学校ですので、公立学校が一体どういう取組をしているのかと、</p>

おこがましい目線で見させていただきました。

私は、あの場の最後の質問に全て込めていたつもりで、公立学校は良くも悪くもトップが変わります。このつくば市立春日学園が開校して13年経過したと伺い、どうして開校当時のマインドが13年経っていまだに保持され続いているのか。沿革を見るとむしろパワーアップしているように思ったので、その秘訣は何だと思われますかということを、校長先生、教頭先生にそれぞれお答えをいただきました。私が納得したことは、まず学校を作る時点です。他にもつくば市には義務教育学校がいくつかありますが、新たに開校するときにこんな学校を作るんですということを教育委員会が地域に懇切丁寧に説明に周ったということでした。だから地域の理解があり、そういう学校が新たにできることの期待を持ってくれたとおっしゃっていました。その期待を背負っているというプライドがあったと私は理解しました。あと、もう一つは、当時作られたとき校長先生あるいは教育委員会の方が、「理念の共有が大事だ」とずっとおっしゃっていたそうです。当時春日学園におり、何年か別の学校行って、その後、春日学園に戻られた先生が、そのことを覚えているとおっしゃっていました。教育というのは、「こういう学校を作るんです」という理念の共有が私も大事だと思っていて、「どこよりも先に明日の教育に出会える学校」というスローガンが上手いと思います。誰が聞いてもすごくワクワクすると思います。なので、異動があっても、口伝えで先生方に語り継がれていくことで、この春日学園のマインドが13年間保たれていたのだろうと私は納得いたしました。

最後に、横松教育長が、「いつかこの春日学園に視察に来てもらえるような学校を私たちも作りたい」と挨拶でおっしゃっていました。私もまさにその通りだと思います。そのまま真似はできないと思いますし、予算と敷地があれば、いくらでもいい校舎と学校ならできると思っています。それ以前に「こういう学校を作りたいんだ」というマインドと計画があって、そこに後から建物がついてくると思っています。白岡市がどのような学校になるかわかりませんが、単に真似をするだけでしたら、良い学校はできません。私たちはどういう学校を作るのだろうという理念をしっかりと持ち、これから議論を進めていければと思いました。いろいろな意味で、委員としても経営者としても、大変勉強に

	<p>なりました。本当にありがとうございます。</p>
濱本会長	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>校長先生のお話の中で、「不易と流行」がありました。不易の部分は、先生が変われど理念は変わらない、それが子どもたちを育てる理念になっているということです。私たちもその理念をしっかりと持てるように、頑張っていきたいと思います。</p> <p>私の感想として、子どもを見ればその学校がわかるなど感じます。9年生の学校紹介を見て、自分の言葉であれだけプライドを持って自分の学校を発表できる子どもたちは素晴らしいなと思いました。中学生は、生活の中で小学校低学年の面倒をみて、そういう中で小学生は先輩に憧れ、中学生は自信に変わっていくと、そういうようなことをおっしゃっていました。やはりそれが義務教育学校の良いところなのかなと改めて痛感しました。</p> <p>皆様の感想と熱意のある報告、ありがとうございました。参加できなかつた方は、この内容を参考にしていただければと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
A委員	<p>1つ教えてください。つくば市は小学校が30校ぐらい、中学校が15校ぐらい、義務教育学校が4校あります。これだけ素晴らしい話が出ていると、つくば市はすべての学校で義務教育学校に向かっていくのか。これだけ良ければ向かうはずだと思いました。</p> <p>つくば市の今後の流れとして、義務教育学校に向かうのか、それとも様子をみるのか、どちらか分かりますでしょうか。</p>
濱本会長	<p>視察の際、校長先生と教育委員会の方々とお話をしましたが、この先、義務教育学校を作るかどうかについては、地域の状況や現在の義務教育学校の状況をみながら今後しっかりと検討していかなければいけないだろうということでした。それぞれの良さを生かした学校をまた考えていきたいということです。事務局からは何かありますか。</p>

事務局	<p>校長先生とお話ししましたが、つくば市自体は、住民の数や児童生徒数が増えているそうです。ところが今回視察に行った春日学園の地域は減っているそうです。児童生徒数の変化が激しい中で、新しく義務教育学校を作るという判断はなかなか難しいとのことなので、当面は今の状態を保っていき、検討は進めていきたいとおっしゃっていました。</p> <p>もう一つ、市内に小学校と中学校が別の地域もあります。つくば市は指定学区となっており、義務教育学校の区域もフリー学区ではなくて、指定学区です。義務教育学校の学区に住んでいる人は義務教育学校に行くし、義務教育学校の学区に住んでない人は小学校、中学校に行きます。これは市民の方から不満がでませんかと質問しましたら、不満は出ていないそうです。つくば市では、義務教育学校の良さはあるのだけれど、各小中学校でも力を入れて取り組んでいるので、転校したいという話はそれほど多くはないことです。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>つくば市は、義務教育学校だから、小学校、中学校だからということではなく、つくば市としての教育理念がしっかり根付いているのだと思います。それぞれの状況の中で、特色を生かしながらつくば市の教育を充実させているのだと思います。</p>
D委員	<p>私もお話を伺って、児童生徒数がどうなるか分からないので、新しい義務教育学校の開校は、今後はストップをかける可能性もあると話をしていました。つくば市は、4つの義務教育学校がある中で、2つの中学校と7つの小学校が統合した義務教育学校があります。その学校は、半数の子どもたちがバス20台で通学している状況だそうです。</p>
濱本会長	<p>春日学園は、当初は2,000人近くの児童生徒が在籍し、通学の際は、バスが何十台も動いていたそうです。現在は1,000人近くの児童生徒が在籍しています。そのような状況を踏まえると、児童生徒数の変化でお金もかかってきますので、先ほどの発言にもありましたように、5年に1度、計画等の見直しをしているとのことです。皆様の報告等も参考にしていただきながら、本</p>

	日の議論に生かしていければと思いますので、よろしくお願いします。
濱本会長	<p>それでは議題に入りたいと思います。</p> <p>では、議題「新たな学習及び多様なニーズへの対応について」を議題といたします。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	新たな学習及び多様なニーズへの対応について説明
濱本会長	<p>事務局からの説明が終わりました。これより質疑及び意見交換に入ります。</p> <p>なお、質疑につきましては、できる限り簡潔にお願いいたします。</p> <p>また、審議会資料の中に、今後の方向性の案が書かれて部分があります。まずは、「少人数指導・教科担任制・チーム担任制」に対する今後の方向性の案について、質疑やご意見をお願いします。</p> <p>それでは、質疑またはご意見はございますか。</p>
M委員	少人数指導の話です。少人数指導は発達段階が関係していると思っていて、教員が何かについて重点的に教育をする上では、例えば、小学校の低学年に対しては少人数指導は十分効果的だと思っています。発達がもっと進んで中学生レベルになると、春日学園の視察でも見たように、生徒同士が教え合う、刺激し合うという環境のほうが教育的效果があつて、発達が進んだ学年においては、少人数指導は逆に刺激が少ないのでと感じました。発達段階に応じて少人数というのは効果的に取り入れるいろいろな考え方があるかと思いますが、一概に少人数指導が教育的に優れる、ということではないと思います。
安原副会長	学校視察に行かれた委員の方々の意見を聞きながら考えさせていただきました。春日学園の学校要覧で、令和7年度のつくば市立春日学園義務教育学校のグランドデザイン、公立学校として狙い的には同じだと思います。我々がこれから議論するのは、おそらくこの中の「つくば市で目指す考え方の転換」の部分ではないかと思います。白岡市では、これからどのように転換していくか。

その方向性について考えていった場合、まさに「①教えから学びへ」「②管理から自己決定へ」「③認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」が重要になると思います。これは今回の審議会資料に書かれている、今後の方向性の内容と重なってくると思います。どうして春日学園がこのような内容を打ち出しているのか、これは審議会資料の5ページにあるように、日本の教育が目指している学習指導、我々は学習指導要領から逸脱することはできませんので、学習指導要領の目指す方向性の内容に春日学園の内容が重なっています。

例えば、「個別最適な学びと協働的な学び」、どうしてこの内容がこれからの中の方向性なのかと考えたとき、子どもたちが生きていく未来社会を予想しながら、こんな教育が、こういう教育の方向性が大事だということが出てきたのだと思います。なので、我々も同じことをこれから考えていかなければいけないと感じました。春日学園では「どこよりも早く明日の教育に出来る学園」とありますが、我々もこれから議論していく中で、子どもたちが生きていく未来でどんな資質、能力を養っていけばいいのだろうかという方向性を出していけたらと感じました。

少人数指導、教科担任制については、発達段階に対して少人数指導が有効な場面、それから教科担任制が有効な場面、何を求めているかということを我々はきちんと反応しながら考えていく必要があるのと思います。その原点は、教育基本法第5条の第2項になっていると思います。義務教育学校の教育の最終的な狙いは「一人一人の適性を伸ばしていくこと」と、地域社会あるいは社会を形成していく社会人として「自立していく力」を身につけていくことを目指していくのだと思います。社会がどんどん変化し、不易流行の中でどんな資質を身につければいいのだろうと考えると、自然とこの流れになっていくと思います。教えることは大切ですが、教えるだけでなく、主体的に自分たちで学んでいく意識を持った子どもたちを育てていきたいと感じました。また、大人が管理・指示するのではなくて、自己決定ができ、自立した子どもたちを育てていきたいと思いました。テストができるといった認知能力の高さだけでなく、それを支えに自己を調整できる、自分のペースで物事を学べる、そういう力を養っていかないと、変化の激しい社会の中で生きていくのではないかと思います。これからの議論で、白岡市の子どもたちを育てていくベースみ

	たいなものが出てくれればありがたいと思います。
C委員	教育内容については、詳しいことはわかりませんが、前回の審議会でアンケート結果を見た際、基礎学力を上げるというところが一番高い回答率であったということは覚えています。そう考えると、教科担任制というのは学力向上をイメージしやすいと思いました。少人数指導もよい制度であるとは思うのですが、なかなかできていないのにはなにか理由があるのかなと思います。それはお金の問題なのか、そんな簡単に先生方を増やすことはできないのか、そのようなことが考えられるのかなと思います。るべき方法として、今後の方向性に書かれた内容については、私は賛同します。
濱本会長	導入が難しい一番の理由は、先生の数だと思います。例えば、2クラスあって、少人数指導に切り替えて3クラスで授業する場合、先生が1人増えるわけです。4クラスにすると先生が2人増える。そういう物理的な面で難しいところがあります。あとは、子どもが「自分は理解が遅いから」と自らゆっくりとした学習コースを選んだ場合、その選択が「勉強ができなくなるのではないか」という新たな不安を生むことがあります。このような感情が学習への意欲を削ぎ、結果としてコース本来の教育効果を損なうという負の側面につながってしまう可能性があります。そのあたりをよく考えていかないと難しいと思います。その都度、その都度、考えていくことが必要だと思います。
E委員	少人数指導、教科担任制について、私は前任校で出産の機会を迎えた先生が同時期に2人いなくなった状況を経験しました。 その時にどういう変化が起きたかというと、全てそうだとは言い切れませんが、子どもたちに特定の先生がいなく、担任の先生がいなくなって、教科ごとに先生がコロコロ変わってしまったことで、不安になってしまった子どもが出てしまったという経験があります。代理の先生が来てくださった時、時間とともにたくさんの子どもたちが落ちついていった様子がみられました。特に4年生だと教科と教科の隙間を埋める先生の存在はとても大事だと感じたことがあります。

濱本会長	<p>先生方の確保については、教育委員会から国、県へしっかりと要望をしていただければと思います。</p>
J 委員	<p>私は親として自分の子どもを育てた経験しかないので分からないことが多いですが、チーム担任制のメリット・デメリットにおいて、保護者の安心感というところを見ていますと、感じることがありました。子どもが小学校中学年ぐらいの時に、担任の先生と私や私の子どもがうまくかみ合わないと思っていた時期がありましたが、そのような場合では、例えば学期ごとに担任が変わることになれば、子どもや保護者の気持ちが切り替えられていいのかと思いました。中学生になると、進路のこともありますし、担任の先生が変わることは難しくなると思うので、小学生ではいい部分もあると思いました。</p>
濱本会長	<p>一般的に言われている小学校にはあって、中学校にない不登校の理由があります。それは「先生との関係性」です。ですので、今、そういった内容も配慮してチーム担任制、あるいは教科担任制を考えていく必要があると思います。</p>
F 委員	<p>1つお話をさせてください。春日学園の話を聞いて、私は行けませんでしたが、ものすごくワクワクしました。この学園の校長になつたら楽しいだろうなと思って聞いていました。</p> <p>そして、白岡市の今後の方向性の案を示していただいたときに、正直なところワクワク感がなくなってしまった感じました。「ワクワクすることをしたいな」というのが私の思いです。</p> <p>先週、地域学校協働活動についてZoOm会議があり、パネルディスカッションに北海道の自治体の方が出てきました。その中で、「学校の中に地域がある」という学校を作っているとの話をされていました。そもそも2030年から小学校で新学習指導要領全面実施になりますが、そこで、文部科学省が学校の意義として、「学校とは社会への準備段階であると同時に学校そのものが子どもたちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会」と示しています。その北海道の学校は、学校の中に保護者、地域の人が普通に入っ</p>

てきます。図書室に地域の方もいれば保護者の方もいる。赤ちゃんもいて、ベビーマッサージをしている。そのそばで、年配の方が赤ちゃんと触れ合っている。すごくダイナミックなことをしており、学校の中で地域があるという状態だと感じました。すごく話に引き込まれたのが、学校の先生が鍵の管理をしていないということでした。教員は教育者のプロとしてやっていただきたいというような話もあり、すごく感心しました。この仕組みはセキュリティの問題があると思いますが、それについては、子どもたちが教室棟から図書室や家庭科室に行くときには、顔認証に入るシステムになっているそうです。逆に図書室に来ている地域の方が教室棟に入ることはできなくなっています。そこまで考えられて作られています。建物は、80年間維持できるそうです。80年先を見越して建てなければいけないとの話を聞いて、ワクワクするなと思いました。なので、審議会資料の1ページに書かれている「これからの学校像」が、非常に重要になると思っています。

先ほどの議論の中で、「今の学校でこういうことができないんですか」との話があったかと思います。私も審議会資料を見て、教科担任制や教育支援センターやさわやか相談室の充実、巡回型の通級支援、今の学校をより良くしていくような方向性であればよいと思いますが、学校の適正規模・適正配置を考えると、ダイナミックに考えたほうがよいのかなと思いました。

濱本会長

白岡市の子どもたちや先生方、地域の方々がワクワクするような学校を考えていく、そのような意見も十分に参考とさせていただきながら、議論を進めていければと思います。

D委員

審議会資料の1ページを見ると、議題内容ということで、大きく5つの枠があります。この枠について今後話し合っていくと認識しました。前回の審議会で私は、適正規模についてお話しましたが、子どもと保護者の人間関係のみでこのぐらいの規模がいいという言い方をしました。学びや行事、学年、学級など、様々な視点があると思います。これらの視点のもとで、適正規模はどういうものなんだろうという話ができれば一番いいと思います。これは前回時間もなかったので簡単に1つの側面から話しただけになってしまい、自分としては

	<p>反省しています。前回の審議会で事務局が総論について審議していただきたいとのことでしたが、この5つが総論ということでしょうか。総論というのは何を指すのでしょうか。</p>
濱本会長	<p>審議会資料の1ページの各枠については、記載されている内容をしっかりと抑えた上で、学校の適正規模・適正配置を考えいき、教育の内容に対してしっかりと共通理解を持っていかないと議論が進まないということで事務局は説明したのだと思います。</p> <p>例えば、適正規模を考えるときに、新たな学習に対して共通理解がないとその先で議論の方向性が違ってきてしますので、まずは新たな学習はこういうことで我々は捉えていきましょう、そして、多様なニーズに応えるについてはこのように捉えていきましょう、といった流れを考えています。そのようにご理解いただければと思います。</p>
濱本会長	<p>それでは、「少人数指導・教科担任制・チーム担任制」に対する今後の方向性については、記載されているとおりとして共通理解を持つということでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に対する今後の方向性の案についてです。</p> <p>まず、お聞きしたいことがありますて、中学校でICTを活用した事例が先進的であると感じました。もう少し内容を伺ってもよろしいですか。</p>
H委員	<p>STEAM教育ということで、教科横断的な視点の指導として、生徒がいろいろな教科でこれまで学んできたこと、他の教科等で学んだことをつなげて考えられるようにすることを大前提として、こういう言葉で表現をしています。</p> <p>生成AIの活用については、詳しい教員がいるので、そこで少し研究しても</p>

らったものを夏休みなどの時間を使いまして、教育で使えるもの、許されるもの、やってはいけないこと、こんなことができますといったことを具体例などを交えながら、時間をかけて中心となる教員から教職員全体が学んだところでです。ですので、教員がこの技術を使って授業をやっているところまではいってはおりませんが、リーダーとなっている教員が、授業で取り入れてそれを他の授業にも広げようとしている段階です。

授業を見ても、子どもたちは、頭の中でこれまで学んできたこと、他教科等とつなげて考えられることで生まれるアイデアを教えてもらえるので、子どもたちにとってすごく学びになっていると思います。あとは技術を扱うための教育と教員の知識だと思っています。まだまだ研究の途中です。

濱本会長

ありがとうございました。このような取組が白岡市内のほかの学校にも広がっていけばよいなと思いました。

またＳＴＥＡＭ教育は、先進的な取組であり、今後、白岡市の教育の核になるかもしれませんと思いました。このような取組を活かしながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実させていくことを引き続きやっていくということです。どの学校も素晴らしい取組をやっていると思います。ただ、その学校で終わるのでなくて、白岡市内のすべての子どもたちに還元できるように、どの学校に行っても同じ教育ができるような形がよいと思います。

濱本会長

それでは、皆様からご意見はありますか。

Ｃ委員

今後の方向性の内容については、記載されているとおりでよいのではないかと思います。ただ、どういった内容に注力していくのか、例えば、白岡市は教育にＩＣＴをどんどん活用をしていきますなど、特徴のある内容も必要になるのかなと思います。

Ａ委員

記載されている方向性の内容が、基礎になってくると思います。今後の議論で、どこを突出して考えていくかという流れになるのかなと思います。

濱本会長	<p>皆様ありがとうございます。</p> <p>それでは、「「個別最適な学び」と「協働的な学び」」に対する今後の方向性については、記載されているとおりとして共通理解を持つということでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、「特別支援教育への対応」に対する今後の方向性の案についてです。</p> <p>記載されている内容について、何かご意見等はございますか。</p>
委員一同	質疑、意見なし
濱本会長	<p>それでは、「特別支援教育への対応」に対する今後の方向性については、記載されているとおりとして共通理解を持つということでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、「不登校児童・生徒への対応」に対する今後の方向性の案についてです。</p> <p>記載されている内容について、何かご意見等はございますか。</p>
A委員	<p>不登校には、程度があると思います。この方向性だと学校に来れる子だけで、家にずっといる子どもに対しては、どのような支援が考えられるのでしょうか。不登校の全体を見て、学校に来れる子どもはこのような対応を考えよう、学校に来られない子どもには、例えばネット配信などを活用して、教室の中で子どもたち同士をつなげて喋れるようにし、つながりを持たせるといった対応もあるのかなと思います。この表現だと学校に来れる子のみの表現に感じてしま</p>

	まうので、学校に来られない子どもへの支援も踏まえた表現を考えてほしいと思うのですが、みなさんいかがでしょうか。
D委員	<p>不登校についての対策は、不登校を出さないというのが基本であると考えます。新しい不登校を生まないということが、不登校の減少につながると思います。その中で、不登校の段階にもいろいろあります。不登校の傾向で、いわゆる保健室登校であるとか、あるいは相談室登校などがある。そして、もう全く学校へ行けない子どもです。学校に行けないと、次の段階は教育支援センターになります。では、教育支援センターにも行けない子どもは、どうするのか。ネット出席制度というのが20年前からあります。ですが、個人的な意見ですが、ネット出席制度を使って出席を支援するのはおかしいと私は思っています。できれば学校に来てほしいという思いがあります。様々な方法はあると思いますが、白岡市教育委員会としてはどういう方向に持っていくのかということを考えていただくことが大事なのかなと思っております。</p>
A委員	<p>今のお話を聞いて、あえて不登校を出さないという方向で考えるとか、様々な子どもたちがいる中で、大人が頑張っても学校に来れない子どももいます。先生方にも頑張っていただいて、親も頑張って、それでも学校に来れない子どももいて、結果的に子どもを追い詰めてしまう、そういったこともあると思います。</p> <p>そういう部分も、踏まえた上で、多様性とは言いますが、そこをどこまでしていくのかといったことも大切です。不登校であった子どもが、現在、芸能人として頑張っているケースもあります。不登校イコール社会不適合者という考え方には違うと思います。</p> <p>学校に来れない子たちをどうやってみていくかということも考えていかないと、その子たちは、取り残されて悪い方向に行ってしまうのではないかと心配になります。柔軟な考えを持って考えていったほうがよいと私は思います。</p>
H委員	今お話しされたことは、その通りだと思います。例えばZooでつないでも、「教室」という空間とつながるのが難しい、「学校」というワードで涙が出

てきてしまう、いろいろなお子さんがいらっしゃいます。

様々な自治体で、メタバース空間での学校と子どもたちのつながりに取り組んでいるということを聞いております。この取組については、今の不登校の状況をどうしていくか考えていくときに1つのアイデアということで、今後話し合っていってもよいと思いました。

M委員

皆様が出された意見はとても共感できます。1ヶ月くらい前にテレビを見ていたとき、こんな学校の例が紹介されていました。神奈川県内だったと思います。その学校は、公立の中学校で分校という形で設けられていました。通常は、全日制というのは普通の学校の言い方ではないですが、全日制の中学校とは別にその分校は、通常のカリキュラムを適用できない子どもたちが通うところになっていました。そして、子どもたちが自分でカリキュラムを作っているようでした。また、登校ありきではなく、先生と子どもが、「君は月、水、金に学校に登校する形だね。では、そのようにしよう。火、木は家で勉強し、出席する形にしよう。」というようなやりとりをして決めていました。先生たちが職員室で、「今日はあの子来なかつたね。ちょっとZoomを使って確認してみようか。」といった対応をしている場面もありました。詳細は、調べれば確認できると思います。

今紹介した内容を白岡市で実施するかどうかは別として、教育支援センターやさわやか相談室といったこのスタイルを学校みたいな形で別に作ったらどうかと思いました。通常通り、全日制的なカリキュラムの学校があつて、多様な学び方に対応した学校がサブとしてあるということは、一つの考え方なのかなと思いました。

各学校に教育支援センターのような支援体制を設ける方法は、きめ細かい対応であると思いますが、これから時代を考えると対応しきれないのかなと思いました。むしろ独立した教育支援センターがあつたり、分校に校長先生がいたり、専門的な指導に長けた先生を配置したりなど、このようなことを考えていくことが新しい、ワクワクする学校につながるのかなと思いました。

濱本会長

ご意見ありがとうございます。

	委員の皆様のご意見を踏まえまして、事務局でこの方向性の案をもう一度考えてみてもらえばと思うのですが、いかがですか。
事務局	貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。方向性につきましては、改めて検討させていただきますので、よろしくお願ひいたします。
濱本会長	それでは、「不登校児童・生徒への対応」に対する今後の方向性については、事務局で改めて検討されたものを次回の審議会で議論する形で進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。
濱本会長	<p>皆様、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。今日いただいた意見につきましては、今後の審議会の議論の中で生かしていきたいと思います。</p> <p>事務局についても、今回のご意見を整理いただき、今後の審議会の有意義な議論につなげていただくようご協力をお願いします。</p> <p>以上をもちまして、本日の議題は、すべて終了いたしました。</p> <p>委員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>～事務局から、「次回審議会の日時について」、「シンポジウムについて」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～</p>
事務局	ただ今の説明について、ご意見、ご質問等がありましたらお願ひします。
委員一同	意見、質問等なし
事務局	委員の皆様から、全体を通して何かございますでしょうか。
委員一同	意見、質問等なし

事務局

5 閉 会

本日は、長時間にわたり、熱心にご審議いただき、ありがとうございました。
これをもちまして、第4回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会を閉会させていただきます。

今後とも、よろしくお願ひいたします。